

プラごみ
流出
ゼロに挑む

～下～

化学メーカーの三菱ケミカル広島事業所(大竹市)を取材した。倉庫では、ペットボトル飲料のラベルが袋詰めされていた。「分けなければごみ分けると資源」。フィルムス本部サークュラーエコノミークループの稲谷新マネジャーは力を込めた。

目指すのはラベルの「水平リサイクル」。インクを洗い落とし、新しいラベルに再生する技術は2年前に確立した。だが分別回収の仕組みがない。現在でも多くが、熱源として燃やすサーマルリサイクルに回る。

同社はラベルの水平リサイクルの実現に向け、大竹市内の6公共施設と広島事業所にキャップとラベルを分けて回収するボックスを試験的に置いた。小学校での出前授業な

水平リサイクル 回収ルートの確立課題

分別徹底 焼かず再生

どで意識浸透も図っている。昨年1月までに約63*が集まった。「想定より多くの協力が得られた」と稲谷マネジャー。今後は素材ごとに選別する方法の研究が要る。「できることから一歩一歩進むしかない」と前を向く。

62%が焼却処分

ユリバシヤパン・カスターマーケテイング(東京)も昨年8月から、ゆめタウン広島(広島市南区)など広島県内の3商業施設でシャンプーなど自社製品の容器を回収。

今は別のプラスチック製品に再生するが、将来の水平リサイクルを見据え「回収の仕組みを検討し、技術検証を進めたい」と説明する。

国は2019年にまとめたプラスチック資源循環戦略で、徹底的な分別回収により再生利用し「難しい場合に熱回収によるエネルギー利用」とする基本原則を掲げた。しかし、プラスチック循環利用協会(東京)によると、21年に排出されたプラスチック824万トのうち、62・0%が熱源として燃やされている。

日本RPF工業会(同)によると、廃プラスチックなどを固めた廃棄物固形燃料(RPF)の21年度の生産は156万トと3年前から16・8%増えた。岡弘事務局長は「エネルギー価格が高騰しており、注目が高まっている。今後さらに需要は増える」とみる。

脱炭素では得策

水平リサイクルはペットボトルが先行している。ラベルなど他のプラスチック類への展開は難しいのか。

叡啓天の石川雅紀特任教授(環境経済学)は「安い廃プラを燃やして発電などに使うのは、現在は合理性がある」とする。ただ、脱炭素の流れが強まるとし「二酸化炭素(CO₂)排出にコストがかかるようになれば、優位性は失われる。メーカーは早く水平リサイクルに取り組む方が得策」と話す。(筒井晴信)



三菱ケミカル広島事業所が集めた飲料ペットボトルのラベル (大竹市)